

授業科目名 (英文表記)	異文化コミュニケーション (Intercultural Communication)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	遠藤 史		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 4月24日(土) 13:00~17:00		
	第2回 5月15日(土) 13:00~17:00		
	第3回 6月5日(土) 13:00~17:00		
<b>【授業のねらい・概要】</b>			
<p>グローバル化が進む現代社会において、現代の国際的なビジネスの場や、国際的な研究交流の場において、文化間の衝突や誤解を避け、互いの文化について適切な理解を求められる機会が増えています。国内においても、職場や地域社会で内なるグローバル化が進むにつれ、適切な対処が必要となってきました。この授業では、国際的な文化・社会研究で得られた知見をもとに、社会的行動、対人関係、ビジネス上の慣習などについて、一般的な理解とともに、個別のケースにも目配りしつつ、国際ビジネス人としてのふるまいに必要な異文化コミュニケーションの知識を学び、スキルの養成につなげていきます。</p>			
<b>【授業計画】</b> 授業は以下の構成に沿って進め、必要に応じて内容を追加します。			
<b>第1回『異文化との出会いとコミュニケーション』</b>			
<p>私たちが暮らしている社会には、法律のように明文化されたルールの他にも、社会の成員が共有している暗黙のルールである文化があります。授業では文化の一般的な概念から出発し、国・地域・組織・社会セクターなどにまたがる文化の重層性を学びます。さらに、グローバル化が進む現代社会において、文化間の衝突や誤解が新たな問題として浮上している中、異文化コミュニケーションの必要性を考えていきます。</p>			
<b>第2回『ビジネスと異文化コミュニケーション』</b>			
<p>現代では国際的なビジネスの場が拡大し、多国籍・多文化のチームがビジネスに取り組む機会が増大してきました。このようなチームは、どのようにして文化間の衝突や誤解を避けつつ、高いパフォーマンスを達成していけばよいのかを考えていきます。最近注目されているカルチャー・マップという視点を紹介し、文化を具体的な指標から見ることによって、国際ビジネスの場での事例をいくつか検討します。</p>			
<b>第3回『これからの社会と異文化コミュニケーション』</b>			
<p>内なるグローバル化が進む現代の日本社会においても、文化間での衝突や誤解を避けるために、適切な異文化コミュニケーションの必要性が増しています。身の回りでの異文化との出会いについて、受講生の皆さんに話をさせていただくことで問題提起を行い、言語の問題、移民問題等の事例を検討していきます。最後には、これからの社会の中で私たちはどのようにして文化の違いを乗り越えていけばよいのかを共に考えます。</p>			
<b>【到達目標】</b>			
<p>文化の基本的な概念を理解し、現代社会での異文化コミュニケーションの必要性を理解できること。ビジネスの場での適切な異文化コミュニケーションに向けて、カルチャー・マップの各指標とその事例を理解できること。これからの社会の中での異文化コミュニケーションがどのような場面で必要とされるかを理解できること。</p>			
<b>【教科書】</b>			
特に定めません。適宜、資料を配布します。			
<b>【参考書】</b> ※購入は必須ではありません。			
G・ホフステード他『多文化世界 違いを学び未来への道を探る』(有斐閣、2013年)			
エリン・メイヤー『異文化理解力』(英治出版、2015年)			
<b>【成績評価方法】</b>			
議論への参加状況(50%)、最終レポート(50%)により総合的に評価します。			
<b>【授業時間外学修についての指示】</b>			
多国籍・多文化のチームが国内・国外でどのようにビジネスを展開しているかの事例、また日本国内における異文化の出会いの事例について、新聞記事やインターネット記事を意識して読むようにして下さい。			
<b>【履修上の注意・メッセージ】</b>			
身の回りでの異文化との出会いについて、受講生に事例を紹介していただき、それをもとに議論を行うことを検討していません。積極的な議論への参加を期待します。			
※基本的には対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインによる遠隔授業を行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。			